

# 序 文

平成 20 年は、愛知県心身障害者コロニー開設 40 周年の年となりました。発達障害研究所は昭和 47 年 4 月に開設されましたので、37 年目を迎えました。開設 40 周年記念事業の一つとして、記念誌「はばたけあしたへ」が刊行されました。同誌の、第一部 各施設の歩み発達障害研究所の項に、研究所のこの 10 年の歩みと、各部門のこの 10 年の研究成果を記載しております。この 10 年を振り返りますと、ゲノム科学や再生医学の大きな進歩が、心身の発達障害に関する医学・医療の展開にも影響を及ぼしています。心身障害のある人の福祉の枠組みも、施設福祉から地域福祉へと大きく転換されました。一連の行政改革の中で行われた研究経費の大幅な削減と人員の削減は、研究所の活動に大きな影響を与えてきました。研究所はこれらの研究を取り巻く状況の大きな変動に懸命に対応してきました。

平成 20 年度は「研究所活動計画」の 2 年目となりました。県民の皆様が研究所を知っていただくために行っている、コロニーサイエンス教室（平成 20 年 10 月 5 日「ひとのからだをしらべる」）、公開シンポジウム 2008（平成 21 年 1 月 29 日「ゲノム重複と神経疾患：診断と病態」）、県民講座（同 2 月 14 日「芸術作品に描かれた心身障害者」）はコロニー開設 40 周年記念事業の一環として開催され、障害のある方々、支援される方々はじめ、多くの方々と交流することができました。平成 20 年度の各部の研究成果、業績は年報の部門別研究の項に記載しております。関係諸機関、研究者の皆様の御参考になる事を、また御指導、御批判いただける事を願っております。

平成 20 年 10 月に神経制御学部岡本室長が、12 月には病理学部吉川研究員が退職し、それぞれマウント・サイナイ病院（カナダ）とアメリカ国立衛生研究所（米国）に赴任しました。平成 21 年 3 月、渡部周生期学部主任研究員、北島主任専門員が定年で退職しました。平成 21 年 4 月、機能発達学部中村主任研究員が室長に昇任し、遺伝学部研究員に富田が、発生障害学部研究員に鈴木が着任しました。昨年度に引き続き平成 21 年度も、細川が病理学部長を、若松副所長が遺伝学部長を、鈴木機能発達学部長が教育福祉学部長を兼任します。

最後に年報第 37 号の発刊にあたり、研究所員各位、特に記録広報委員各位の努力に感謝します。

平成 21 年 4 月

愛知県心身障害者コロニー  
発達障害研究所長  
細川昌則